

オオタニワタリ類

チャセンシダ科

Asplenium antiquum

在来種

別名 -

方言名 ヤマガシヤ、ヒラムシル、サムムス

生育型 草本 多年草

繁殖 孢子、株分



分布 伊豆諸島以南、沖縄、台湾

見た目の特徴

根茎は塊状となり、葉は単葉で短い葉柄をつけ、放射状に広がる。表面に光沢があり、裏面には茶褐色の胞子のう群がついている。

用途

地被、観葉

植栽・管理のポイント

- ・ 光陰性であるため、日陰で湿度の高い場所に植栽する。
- ・ 耐寒性がある。
- ・ 用土は腐植質が多く水はけの良いものを用いる。

食樹・食草として利用する動物

【貝類】カタツムリ類、ナメクジ類

備考（人々との関わり・利用方法、市民の評判など）

新芽を食用する。

フクロウ類（リュウキュウアオバズク）が巣として利用することがある。

オキナワウラボシ

ウラボシ科

Phymatosorus scolopendria

在来種

別名 -

方言名 サンムス

生育型 草本 多年草

繁殖 孢子、挿木、株分



分布 台湾、中国南部、小笠原、沖縄

見た目の特徴

単葉を根元から密生させ地表を覆う。

用途

地被、観葉

植栽・管理のポイント

- ・半日陰で、やや湿って場所を好む。
- ・日当たりの良い場所では、葉を直立させて生育する。
- ・乾燥に強い。
- ・定期的に剪定を行う。
- ・病害虫の被害は少ないが、カイガラムシ類が付くことがある。

食樹・食草として利用する動物

【昆虫類】カイガラムシ類

備考（人々との関わり・利用方法、市民の評判など）

ハワイでは、同種を緑化樹の下草など地被植物として広く利用されている。

ゲットウ

ショウガ科

Alpinia zerumbet

在来種

別名 シェルジンジャー 方言名 サンニン、サミン、サニン

生育型 草本 多年草 繁殖 実生、種子、株分



分布 台湾、南中国、インド、マレーシア、日本（九州南部以南）

見た目の特徴

大型の葉を持ち、花は白色で唇弁は縁が黄色で中心が紅色で、房状に下垂する様美しい。

用途

庭園、公園、装飾

植栽・管理のポイント

- ・日当たりの良い湿った場所に植栽する。
- ・やや内陸部の植栽に適する。
- ・株が大きくなった場合は根元部分から間引きする。
- ・枯葉が目立つので除去する。
- ・病害虫の被害は少ない。

食樹・食草として利用する動物

【昆虫類】 チョウ類：クロセセリ、オオシロモンセセリ、シロウラナミシジミ

備考（人々との関わり・利用方法、市民の評判など）

ムーチーと呼ばれる行事で、葉で包んで蒸した餅を供える。
古い時代に移入された外来種とする説もある。

コモチシダ	シシガシラ科	<i>Woodwardia orientalis</i>	在来種
-------	--------	------------------------------	-----

別名 ハチジョウカグマ、台湾コモチシダ (変種) 方言名 -

生育型 草本 多年草 繁殖 無性芽、孢子



分布 台湾、南中国、フィリピン、伊豆七島、南九州以南

<p>見た目の特徴</p> <p>根茎は太く、短く這い、褐色の鱗片を密布する。葉は大型で束生する。葉柄は太く褐色、滑らかで光沢がある。</p>	<p>用途</p> <p>地被、観葉、壁面</p>
--	----------------------------------

植栽・管理のポイント

- ・ 土壌は特に選ばない。
- ・ 日当たりの良い、やや湿った場所に植栽する。

食樹・食草として利用する動物

-

備考 (人々との関わり・利用方法、市民の評判など)

無性芽を作ることから、コモチシダ (子持ち羊歯) の名前を得た。

タマシダ類		ツルシダ科	<i>Nephrolepis cordifolia</i>	在来種
別名	－	方言名	ムガヂグサ、ンバンヌナフト	
生育型	草本 多年草	繁殖	株分	
				
分布	熱帯、亜熱帯地方、日本（伊豆諸島～琉球列島）			
見た目の特徴	用途			
根茎は直立して短く、匍匐枝を出して広がり、群生する。所々に1～2cmの球形をした塊茎を付ける。	下草、地被			
植栽・管理のポイント				
<ul style="list-style-type: none"> ・耐乾性、耐潮性に強く、海岸地域の植栽に適する。 ・半日陰地でやや湿気のある場所を好む。 ・繁殖力が旺盛である。 ・枯葉を適宜除去する。 ・病虫害の被害は少ない。 				
食樹・食草として利用する動物				
【昆虫類】 バッタ類				
備考（人々との関わり・利用方法、市民の評判など）				
生け花の花材としてよく利用される。				

ツワブキ

キク科

Farfugium japonicum

在来種

別名 - 方言名 チパッパー、ツパパ、チファファ

生育型 草本 多年草 繁殖 株分



分布 台湾、中国南部、日本（関東以南）

見た目の特徴

革質の広い葉を持ち、黄色の花を咲かせる。

用途

下草、地被

植栽・管理のポイント

- ・ 土壌は特に選ばず、生育は極めて旺盛である。
- ・ 半日陰で腐植質に富んだ砂質土壌では生育が旺盛となる。
- ・ 海岸地域からやや内陸部の植栽に適する。
- ・ 開花後、枯れた花茎を除去する。
- ・ カタツムリ類の食害に注意する。

食樹・食草として利用する動物

【貝類】カタツムリ類

備考（人々との関わり・利用方法、市民の評判など）

江戸時代の初めから茶室の庭等に植えられた。食用とした歴史も古い。

テッポウユリ	ユリ科	<i>Lilium longiflorum</i>	在来種
--------	-----	---------------------------	-----

別名 リュウキュウユリ、サガリユリ、ツツナガユリ 方言名 ユイ、ユーガハナ、ゾユヌハナ

生育型 草本 多年草 繁殖 分球



分布 奄美以南

見た目の特徴

筒状の花が、茎の先端に群がって咲く。

用途

宿根草花壇、地被、装飾

植栽・管理のポイント

- ・ 日当たりの良い排水の良い砂質土壌を好む。
- ・ 海岸地域の植栽に適する。
- ・ 開花後、枯れた花茎を除去する。

食樹・食草として利用する動物

【昆虫類】ワタアブラムシ

備考（人々との関わり・利用方法、市民の評判など）

鑑賞用、食用、薬用として利用される。

ハマオモト	ヒガンバナ科	<i>Crinum asiaticum</i> var. <i>japonicum</i>	在来種
-------	--------	---	-----

別名 ハマユウ **方言名** サダクビー、サデフカー、ビイング、フクル

生育型 草本 多年草 **繁殖** 実生、株分



出典：沖縄植物野外活用図鑑

分布 台湾、南中国、インド～マレーシア、東南アジア、日本（関東以南）

見た目の特徴 芳香性の花が、長い花茎の先端に咲く。	用途 公園、街路、花壇、下草
-------------------------------------	--------------------------

植栽・管理のポイント

- ・日当たりの良い排水の良い場所を好む。
- ・土壌は特に選ばない。
- ・耐潮風性が強く、強風に耐える。
- ・枯葉は適宜除去する。
- ・病害虫の被害は少ない。

食樹・食草として利用する動物

【昆虫類】 ガ類：ハスモンヨトウ、ハマオモトヨトウ

【貝類】 カタツムリ類、ナメクジ類

備考（人々との関わり・利用方法、市民の評判など）
浜に生えるオモトの意で名付けられた。

ボタンボウフウ

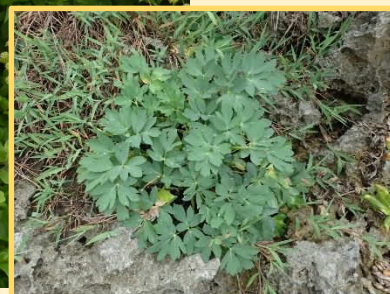
セリ科

Peucedanum japonicum

在来種

別名 - 方言名 サクナ、チョーミーグサ

生育型 草本 多年草 繁殖 播種、実生



分布 台湾、中国、フィリピン、関東以南

見た目の特徴

茎は直立し、葉は倒卵状菱形で分裂する。
花は白色で小さく、枝先に多数咲かせる。

用途

下草

植栽・管理のポイント

- ・ 土壌は特に選ばない。
- ・ 日当たりの良い場所に植栽する。

食樹・食草として利用する動物

-

備考（人々との関わり・利用方法、市民の評判など）

薬用として利用される。
野草として山羊汁、刺身のつま等で食される。
葉の形状がボタンに似ていることから名付けられた。

ヤブラン

キジカクシ科

Liriope muscari

在来種

別名 リリオペ

方言名 シギ

生育型 草本 多年草

繁殖 実生、播種



分布 台湾、中国、フィリピン、関東以南

見た目の特徴

葉は革質、線状披針形で先がとがる。葉束の間から円筒形の花穂を出し、淡紫色の小さな美しい花を多数咲かせる。

用途

下草、観賞

植栽・管理のポイント

- ・半日陰で石灰岩土壌を好む。
- ・丈夫である。

食樹・食草として利用する動物

—

備考（人々との関わり・利用方法、市民の評判など）

藪に生え、葉状がランに似ていることから、名付けられた。

クササンダンカ

アカネ科

Pentas lanceolata

外来種

別名 ペンタス

方言名 -

生育型 草本 多年草

繁殖 実生、挿木



分布 東熱帯アフリカ～アラビア半島南部

見た目の特徴

花はサンダンカに似て、枝先に多数集まって咲く。枝が横に広がる。

用途

地被、花壇

植栽・管理のポイント

- ・ 日当たりの良い排水の良い場所を好む。
- ・ 用土は腐葉土などの有機質を多く含む土壌を用いる。
- ・ 強風に弱いため風当たりの少ない植栽場所を選ぶ。
- ・ 病害虫の被害はほとんどない。

食樹・食草として利用する動物

-

備考（人々との関わり・利用方法、市民の評判など）

名前が似るサンタンカ *Ixora chinensis* とは、花の様子が似ているが、別属別種である。

タマスダレ		ヒガンバナ科	<i>Zephyranthes candida</i>	外来種
別名	-			
方言名	グシイ、アミフィバナ			
生育型	草本 多年草	繁殖	株分、分球	
出典：沖縄植物野外活用図鑑				
				
分布	南アメリカ、ペルー			
見た目の特徴	株が密生し、白い花が多数咲く。		用途	下草、花壇、装飾
植栽・管理のポイント				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 日当たりの良く排水の良いやや湿った場所を好む。 ・ やや乾燥に弱い。 ・ 病害虫の被害は少ない。 				
食樹・食草として利用する動物				
-				
備考（人々との関わり・利用方法、市民の評判など）				
<p>類似種のサフランモドキと共に、石垣の元に良く生え、花が咲く頃になると雨が降ると言われている。</p> <p>葉は有毒である。</p>				